

2026年 乾癬の医療費に関する調査



(一社) 日本乾癬性疾患協会 (INSPIRE)
株式会社ピアハーモニー



>> 医療費についてのアンケート

対象者	乾癬と診断された患者さん
調査方法	GoogleフォームによるWebアンケート
実施期間	2026/2/10(火)~2/28(土)
募集方法	<ul style="list-style-type: none">• 乾癬LINEオープンチャット• 乾癬患者・家族パネルへのメルマガ• X(旧Twitter)アカウントでの紹介
回答者数	86名

>> 結果のまとめ

1



高額療養費制度への 依存が大きい

回答者の約半数が「**高額療養費制度**」を利用しており、そのうち7割の方が「**多数回該当**」による負担軽減を利用している

制度改正(上限額引き上げ)への不安は極めて大きい

2



高い薬価は新薬の使用 の大きなハードル

バイオ製剤などの新薬に効果を期待しつつも、高額な自己負担がネックとなり**治療変更**を躊躇する患者が多い

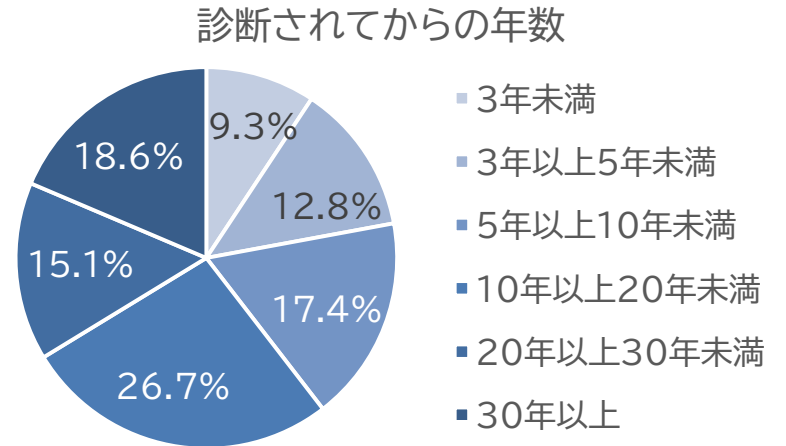
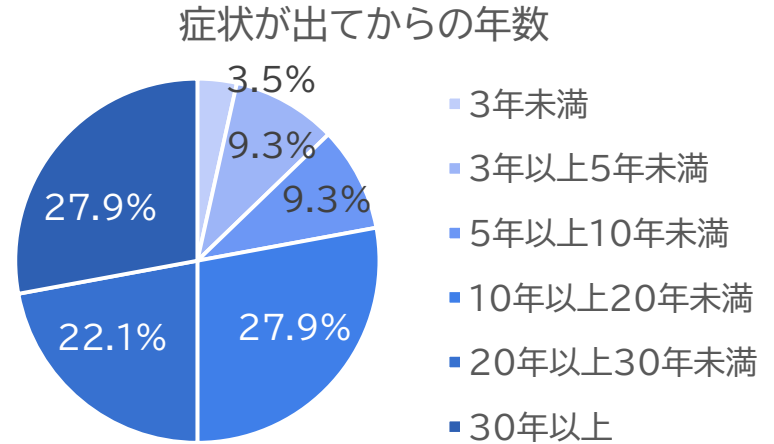
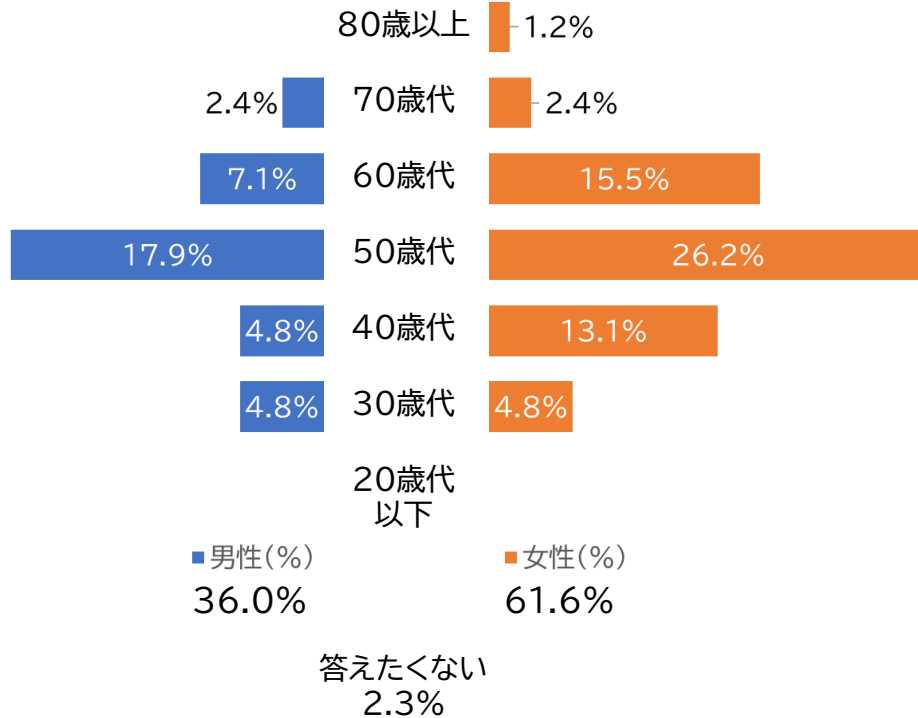
3



生活への影響が 非常に大きい

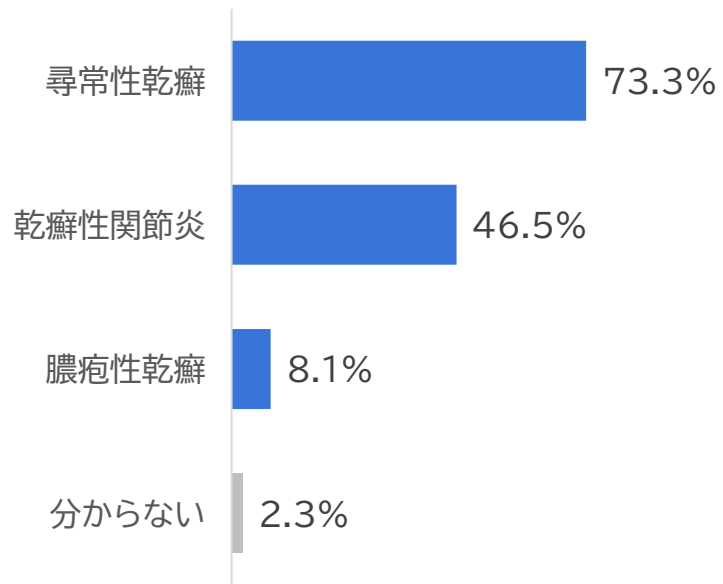
教育費や生活費を削って治療費を捻出
「**家族に申し訳ない**」という罪悪感や、将来への悲観的な声が多数寄せられた

>>回答者の属性

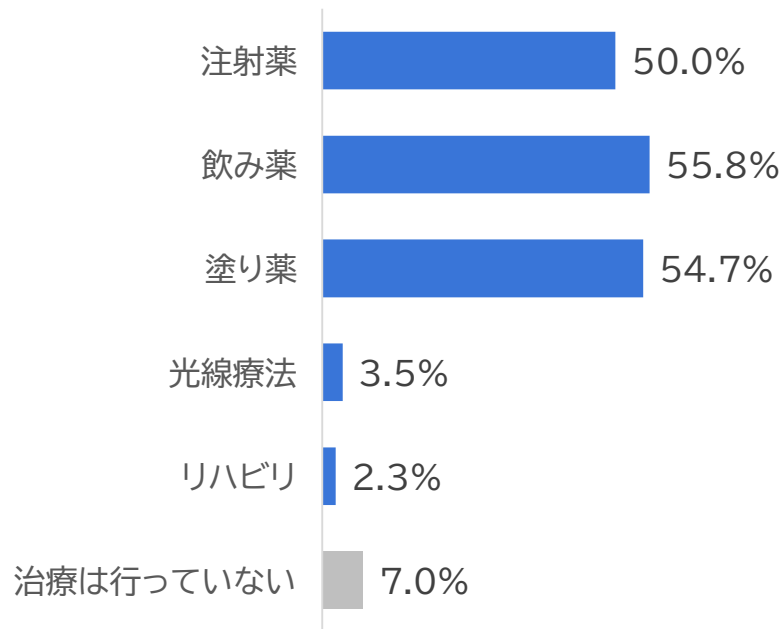


>>回答者の属性

乾癬の種類

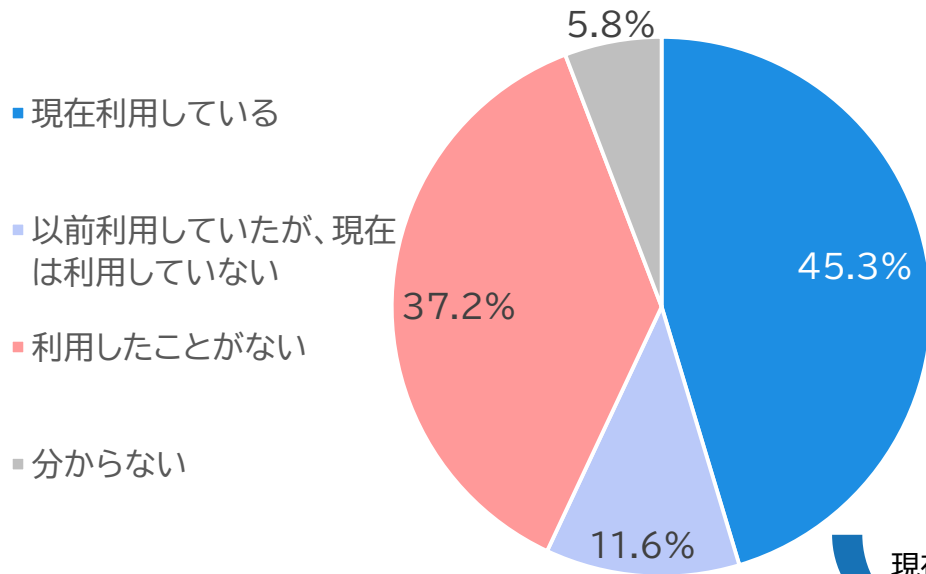


現在の治療法

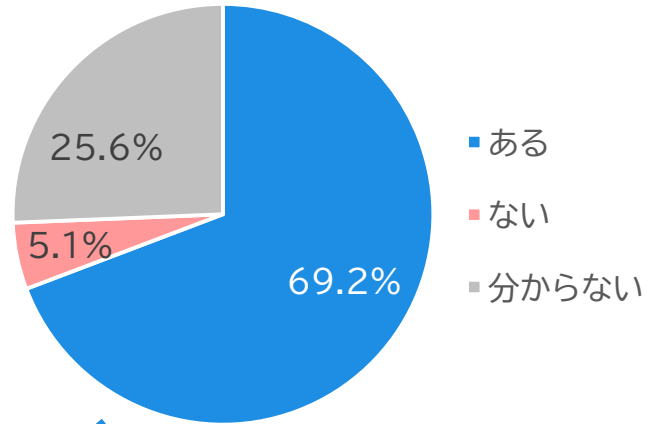


>> 高額療養費制度の利用状況

「高額療養費制度」の利用状況



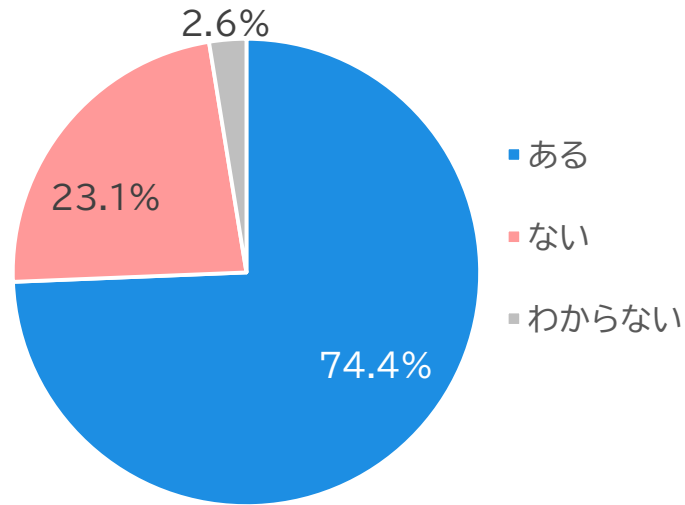
利用者のうち「多数回該当」に当てはまった経験



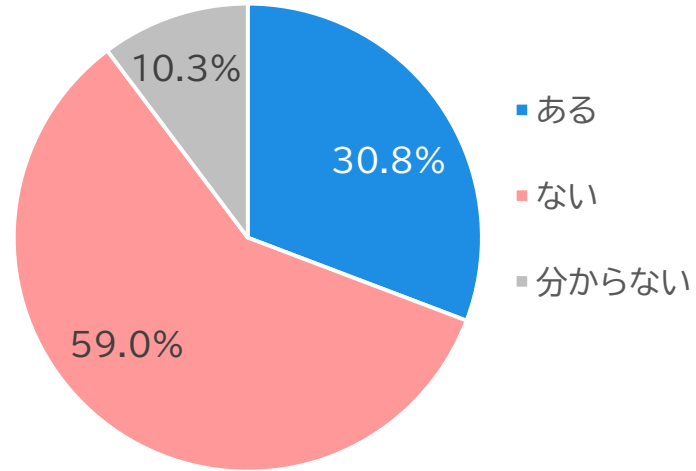
現在利用している
39名が回答

>> 高額療養費制度の利用中の工夫

処方箋を2,3か月に1回に
まとめてもらったことがありますか？



4週間/回の薬を、同じ月に2回投与できる
よう工夫したことがありますか？

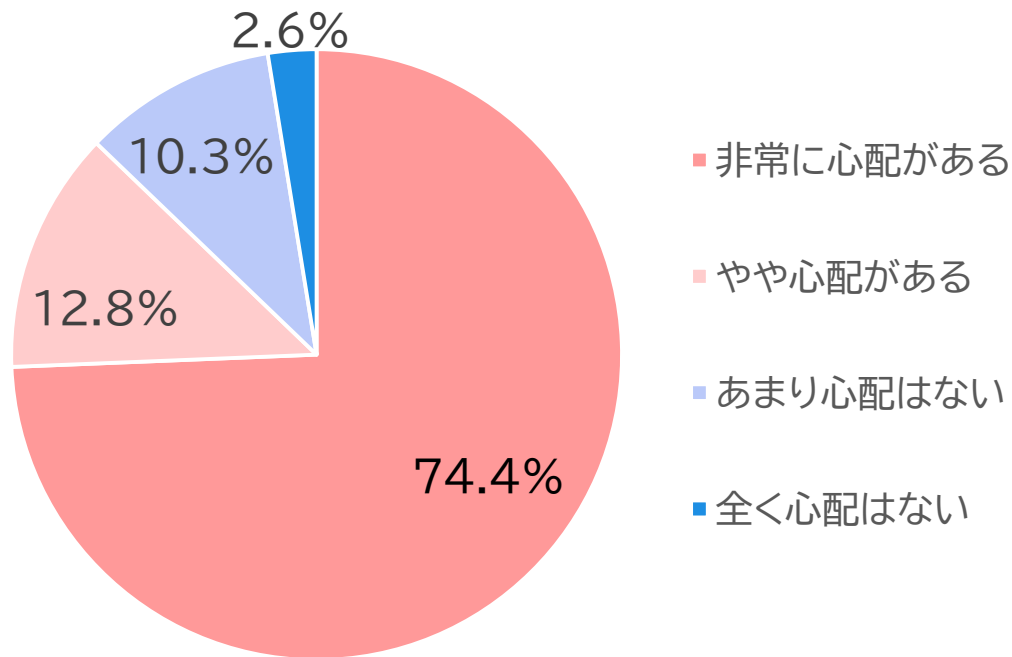


>> [参考] 注射タイミングの工夫のイメージ

March **3** 令和8年
2026

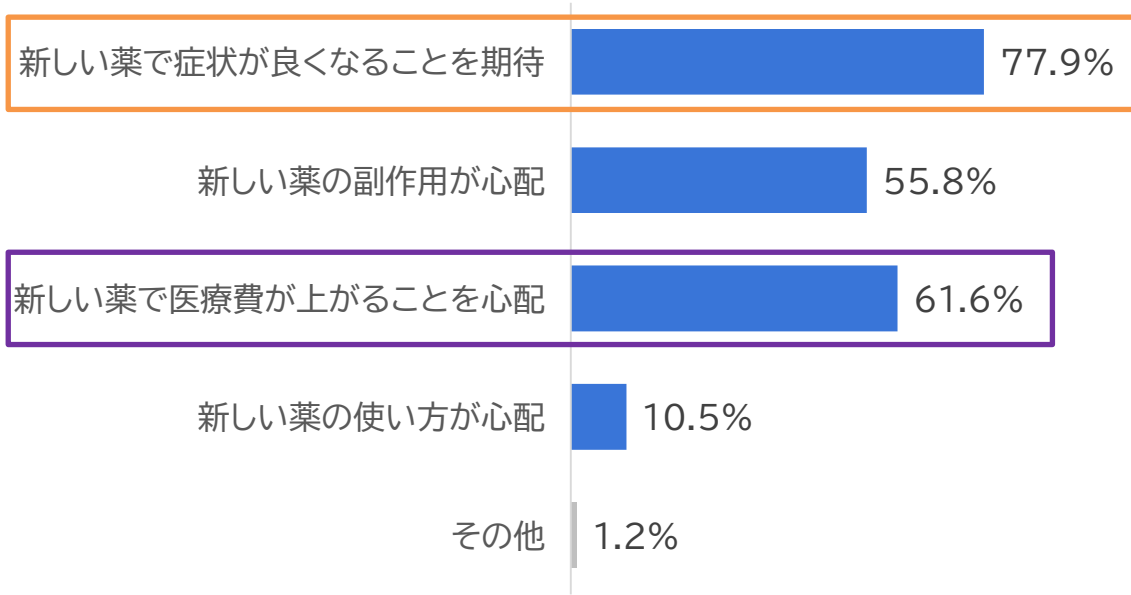
日	月	火	水	木	金	土
1	2  1回目	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30  2回目	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

>> 高額療養費の引き上げへの不安

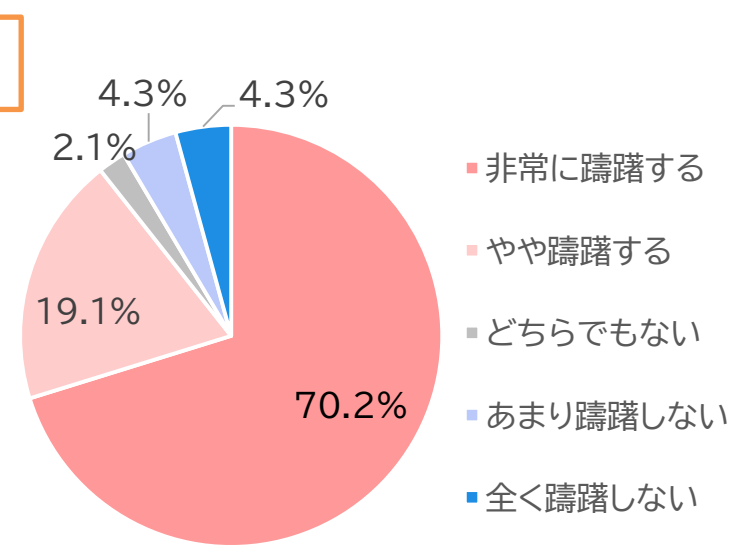


>>新薬への期待と薬価のハードル

新しい薬を提案された時に考えること



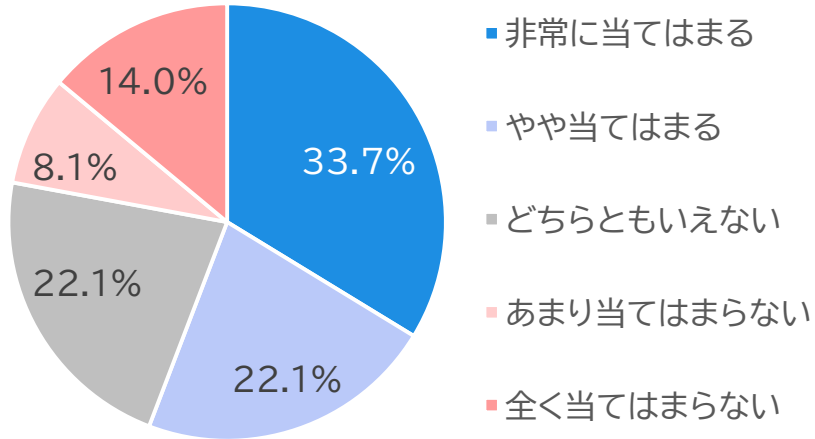
医療費が月10万円と言われた時の躊躇



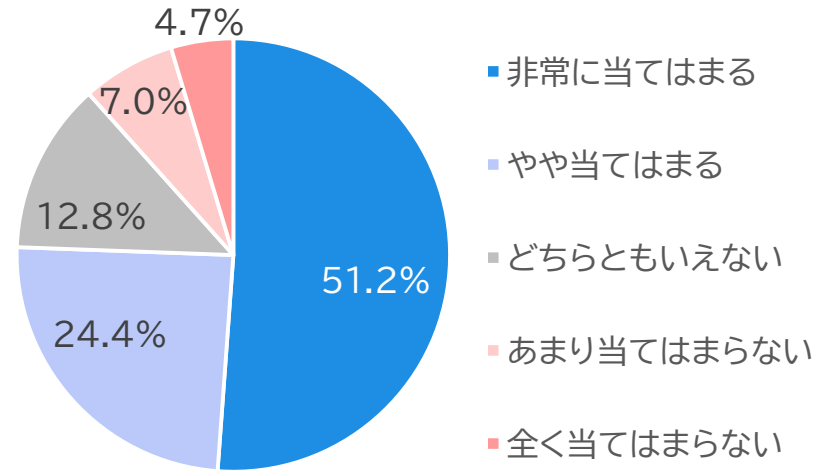
※高額療養費を利用していない47名に質問

>> 主治医との対話・薬価への意識

主治医とお金のことを腹を割って話せるか？



処方薬の値段を気にしている



高額療養費制度の見直しについて

所得区分	現行		R8.8～			R9.8～		
	月額上限	外来特例 (70歳以上)	月額上限	年間上限	外来特例 (70歳以上)	月額上限	年間上限	外来特例 (70歳以上)
約1,650万円～ (標報：127万円～)	252,600 + 1% <140,100>	-	270,300 + 1% <140,100>	1,680,000 (月額平均140,000)	-	342,000 + 1% <140,100>	1,680,000 (月額平均140,000)	-
約1,410～約1,650万円 (標報：103～121万円)						303,000 + 1% <140,100>		-
約1,160～約1,410万円 (標報：83～98万円)						270,300 + 1% <140,100>		-
約1,040～約1,160万円 (標報：71～79万円)	167,400 + 1% <93,000>	-	179,100 + 1% <93,000>	1,110,000 (月額平均92,500)	-	209,400 + 1% <93,000>	1,110,000 (月額平均92,500)	-
約950～約1,040万円 (標報：62～68万円)						194,400 + 1% <93,000>		-
約770～約950万円 (標報：53～59万円)						179,100 + 1% <93,000>		-
約650～約770万円 (標報：44～50万円)	80,100 + 1% <44,400>	-	85,800 + 1% <44,400>	530,000 (月額平均約44,200)	-	110,400 + 1% <44,400>	530,000 (月額平均約44,200)	-
約510～約650万円 (標報：36～41万円)						98,100 + 1% <44,400>		-
約370～約510万円 (標報：28～34万円)						85,800 + 1% <44,400>		-
約260～約370万円 (標報：20～26万円)	57,600 <44,400>	18,000 (年14.4万)	61,500 <44,400>	530,000 (月額平均約44,200)	22,000 (年21.6万)	69,600 <44,400>	530,000 (月額平均約44,200)	28,000 (年21.6万)
約200～約260万円 (標報：16～19万円)						65,400 <44,400>		28,000 (年21.6万)
～約200万円 (標報：～15万円)						61,500 <34,500>		22,000 (年21.6万)
非課税【70歳未満】	35,400 <24,600>	-	36,900 <24,600>	290,000 (月額平均約24,200)	-	36,900 <24,600>	290,000 (月額平均約24,200)	-
非課税【70歳以上】	24,600	8,000	25,700 <24,600>	290,000 (月額平均約24,200)	11,000 (年9.6万)	25,700 <24,600>	290,000 (月額平均約24,200)	13,000 (年9.6万)
一定所得以下【70歳以上】	15,000	8,000	15,700	180,000 (月額平均15,000)	8,000	15,700	180,000 (月額平均15,000)	8,000

(※1) 「～約200万円(標報：～15万円)」区分に該当することが確認できた者は、年間上限41万円を適用し、令和9年8月以降に償還払い。

(※2) 外来特例の対象年齢については、「「強い経済」を実現する総合経済対策」(令和7年11月21日閣議決定)において、「医療費窓口負担に関する年齢によらない真に公平な応給負担の実現」について、「令和7年度中に具体的な骨子について合意し、令和8年度中に具体的な制度設計を行い、順次実施する」とされていることも踏まえ、高齢者の窓口負担の見直しと併せて具体案を検討し、一定の結論を得る。

>> [インタビュー]高額療養費に届かない乾癬患者さんの体験



皮膚生検で乾癬と診断。飲み薬で皮膚は劇的に改善

2022年初頭、皮膚生検を経て診断確定。処方された飲み薬で皮膚の症状は非常に良くなりました。

消えない関節の痛み。バイオシミラーの導入と生活への影響

関節炎の症状が残り、3か月分(12本)の注射剤を処方。冷蔵庫が薬でいっぱいになり、費用の高さに驚きました。



さらなる高額化。3か月で12万円超でも「3割負担」の現実

飲み薬(JAK阻害薬)への変更で医療費が上昇。高額療養費の上限に届かず、3割負担が続きます。



夫の定年を見据えた「寛解」へのゴール設定

定年後の収入減に備え、今のうちに寛解を達成し、将来は安価な薬で維持できる状態を目指しています。